

CASBEE 広島 2016年版
広島市立新安佐市民病院(仮称)

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								4.0	
Q1 室内環境					0.40		-	3.8	
1 音環境				2.5	0.15	3.0	1.00	2.6	
1.1 室内騒音レベル		外来待合と診療室の床面積加重平均45.20dB(A)、病室35dB(A)		3.0	0.40	4.0	0.40		
1.2 遮音				1.8	0.40	3.2	0.40		
1 開口部遮音性能		病室T-2		3.0	0.40	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能				1.0	0.60	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				4.1	0.35	4.0	1.00	4.1	
2.1 室温制御				3.3	0.50	3.0	0.50		
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43		
3 ゾーン別制御性		マルチパッケージ形空調和機による細かなゾーニングを行い、冷房・暖房の切替ができるシステムとしている		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		加湿・除湿機能を有し、相対湿度50%を実現できる設備容量を確保 居住域の上下温度差や気流速度が少なくなるよう吹出・吸込口位置 や風量を設定		5.0	0.20	5.0	0.20		
2.3 空調方式				5.0	0.30	5.0	0.30		
3 光・視環境				3.5	0.25	4.3	1.00	3.7	
3.1 昼光利用				2.6	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		病室2.1%		1.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備		光集光装置を屋上に設置し、各階エレベーターホール照明に利用		5.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御		(共用部)ブラインド、(病室)カーテン+庇		3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		診察室500lx以上、病室150lx以上、壁面の鉛直面照度100lx以上 明るさセンサー、画像センサーを使用。ベッド単位で点滅、SSからの 消灯が可能		4.0	0.15	4.0	0.15		
3.4 照明制御				5.0	0.25	5.0	0.25		
4 空気質環境				4.1	0.25	4.1	1.00	4.1	
4.1 発生源対策				5.0	0.50	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気				2.0	0.30	2.6	0.38		
1 換気量				1.0	0.50	1.0	0.33		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積:居室床面積1/15以上		-	-	4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		敷地内全面禁煙としている		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	4.3	
1 機能性				4.2	0.40	4.8	1.00	4.3	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		病室4床室34.97㎡/4=8.74㎡、病室個室10.84㎡		-	-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	4.5	0.40		
1 広さ感・景観		病室天井高さ2.50m		-	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画		インテリアパースによる内装計画の事前検証		5.0	1.00	5.0	0.50		
1.3 維持管理				5.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		内外装に防汚性の高い仕上げを採用		5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		維持管理機能に配慮した計画としている		5.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				4.7	0.30	-	-	4.7	
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		病院棟:免震構造、EC棟、横断橋:重要度係数I=1.5		5.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		病院棟:免震構造		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				4.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		品確法における鉄骨造の評価方法基準で等級3相当		5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		押出成形セメント板30年、タイル40年、フッ素樹脂塗装20年、アル建具40年		3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		【病室】床:ビニル床シート20年、壁:ビニルクロス20年、天井:ビニルクロス30年、 鋼製建具30年		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の2種以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				5.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		空調換気設備の災害時対応を考慮した系統分け、熱源機器の二重化		5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		節水型器具、災害時緊急排水槽、井水利用、受水槽に災害用水栓 を設置、受水槽は2基の水槽を分離して設置、災害時を考慮した配 管の系統分け		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備		非常用発電機、無停電電源装置、浸水の危険性無し、異なる変電 所		5.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスS		5.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水の危険性無し、災害時用衛星電話、無停 電電源装置		5.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			4.2	0.30	3.8	1.00	4.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	4.6	0.50	
1	階高のゆとり	共用部階高6.00m、病室部階高4.10m	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率(共用部)0.10、(病室)0.22	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		診察室3,900N/m ² 、病室1,800N/m ²	4.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			4.2	0.40			
1	空調配管の更新性	構造部材、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	4.0	0.20			
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく更新・修繕ができる	4.0	0.20			
3	電気配線の更新性	構造部材、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10			
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性	主要設備機器の更新に対応した仮設スペースを確保し更新・修繕時に建物機能を維持できる	4.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備スペースを確保	4.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出		外構緑化指数17.09%、建物緑化指数7.29%	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		要綱の遵守、太田川沿い桜並木を再生	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		県産材木製受水槽の採用、玄関前庇・南側ピロティの計画	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率45.84%、水平投影面積率8.69%、緑被率等の合計6.70%、舗装面積率22.33%、緑化率13.7%	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPI _m]= 0.83	4.7	0.20	-	-	4.7
2 自然エネルギー利用		太陽光を利用した光集光装置を採用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m]= 0.63	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	熱源設備・給湯設備の効率評価、太陽光発電設備評価	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	エネルギーサービス事業を導入することにより、効率的な運用を行う	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	屋上緑化用灌漑に雨水を利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.13	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.25	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床材、クロス、ボード	5.0	0.25	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.13	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		再利用できるユニット部材(OAフロア、可動間仕切り)の採用	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20	-	-	3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料の選定	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	ガス消火設備に窒素ガスを使用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		設備システムの高効率化により、ライフサイクルCO ₂ 排出量の削減に配慮	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		卓越風向に対する建築物の見付け面積比126.96%、隣棟間隔指標Rw2.05、地表面対策面積率7.67%、屋根面対策面積率7.29%	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車置場の確保、駐車施設附置義務条例の基準を満足	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	対象外(気送管設備圧縮機7.0kW、医療ガス用コンプレッサ-3.7kW×3)	3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	4時間2.5時間にて日影規制クリア	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たしている	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	